15人の講師による輪講の形式である。講義予定は次の通り。

第1回　小柳津英知　イントロダクション＋「流行するアジアの都市間競争論とその問題点」

第2回　川崎賢一（駒澤大学GMS学部）「東南アジアの文化政策」
東南アジアの文化政策について概況を説明する。内容は二つある。一つは東南アジアの歴史を概観し、アセアンの文化政策までその輪郭を説明する。もう一つは、文化政策について芸術文化や文化産業などに焦点を当てて、それらを積極的に推し進めている、シンガポール・マレーシア・タイなどの文化政策についてその特色を明らかにする。

第3回　星野富一　「アジア通貨危機後の東アジア地域金融協力」
東アジア諸国は、国際短期資金の逆流による為替相場の急落や資金支援の見返りにＩＭＦから要求された自由化政策のため破滅的な危機に見舞われた。アジア通貨危機後、東アジア諸国はチェンマイ・ニシアティブなどＩＭＦに依存しない独自の地域金融協力を推進した。東アジア共同体の枠組みを作ったこうした取り組みの意義を説明する。

第4回　鈴木隆（名古屋学院大学）「脆弱性の観点から見た東アジア地域統合の理論と実際」
日本にとって、アジアは最も重要な経済パートナーです。反面、この地域には歴史認識や領土・領海をめぐる深い断層が存在しています。そんな政冷経熱の下で、東アジアの地域協力をどう推し進めていけばよいのか。地域の脆弱性に対する認識、ないし危機意識という観点から、制度としての東アジア広域協力の可能性を探ります。

第5回　坂　幸夫「中国人技能実習生の日本からの離脱と東南アジア人技能実習生の増加」
中国人技能研修生は、東日本大震災と中国国内の人件費の高騰により、日本に来る人は徐々に少なくなっている。それに対し増えているのが、東南アジアからの技能実習生である。その内インドネシア人実習生は、その宗教的特質、つまり国民の９割がイスラム教信者であり問題も少なくない。講義ではアジア諸国が抱える問題、例えばアジア諸国と中国との領土問題などに絡め、日本が実習生を中国から東南アジア諸国に移していく中、生じる問題を論じたい。

第6回笠原十九司（都留文科大学名誉教授）、共通教科書編纂者（日本側代表）。
日中韓の歴史認識問題

第7回　尹　文九（東京福祉大学）「東アジアの少子・高齢化の現状」
東アジアの少子・高齢化の現状を一般論から日本と比較して検討する。その後、対策の一つとして「DJウェルフェアリズム（生産的福祉論）」を東アジア福祉モデルとして取り上げ、その内容や課題について検討する。

第8回　岩内秀徳「アジア地域経済圏の新興国と日本企業のFDI（海外直接投資）」
アジア地域は、ここ20数年間、2度の金融危機を経験しつつも、国際経済の成長地域として注目されてきた。また、アジア地域経済圏の新興国において日本企業はアウトソーシングとしての生産拠点および第3国への輸出拠点、消費地拠点、研究開発拠点として東アジア、東南アジア、南アジアにおいてＦＤＩ（海外直接投資）というツールを用いて多国籍に展開してきた。これらをテキストおよび新聞記事などを用いてタイムリーな事柄を織り込みつつ扱う。

第9回　渡辺康洋（桜美林大学）「東アジアの観光流動」
日本と東アジアの観光政策の重要性と最近の課題をデータから分析する。

第10回　王　大鵬　「中台経済協力枠組み協定と東アジア地域統合へのインパクト」
中国と台湾との準FTAである経済協力枠組み協定（ECFA）」が東アジア諸国の通商戦略及び東アジア地域経済統合に与える影響について検討する。

第11回　酒井富夫　FTAと農業政策
第12回　金奉吉　地域統合
第13回　藤野文晤
第14回　鄭　俊坤
第15回　進藤栄一　アジア共同体の展望

定期試験の実施

キーワード（５００文字以内）
東アジア共同体構想、地域経済統合、TPP、食料自給率、歴史認識、東アジアの文化政策、東アジア福祉モデル
履修上の注意（２０００文字以内）
下記のテキストを用いて授業を行うので、必ず入手すること
教科書・参考書等（８００文字以内）
教科書：「東アジアの地域的統合の探究」（2012年、法律文化社）（講師による共同執筆）